氏　　名	杉浦　正一郎（すぎうら　しょういちろう）
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1133 号
学位授与の日付	平成 29 年 3 月 21 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	デュタステリド内服中の患者における前立腺がんの臨床的検討
指　導　教　員	教授　山口　雷藏（板橋・泌尿器科学講座）
論文審査委員	主査　石坂　和博　教授　（溝口・泌尿器） 副査　納谷　幸男　教授　（ちば・泌尿器） 副査　渡邊　清高　准教授（板橋・内科学）

論文審査結果の要旨

学位審査論文のデュタステリド内服中患者における前立腺癌の臨床的検討．2016年11月4日帝京医学雑誌に受理採択され，2017年に掲載予定の単著論文である．

前立腺肥大症治療薬であるデュタステリドは，5α還元酵素阻害により作用しPSA低下を来すため，前立腺癌確定診断への影響が危惧されている．悪性度の高い癌が存在する場合にはPSAが上昇を示すことがあるが，PSA変化に応じた診断方法は確立されていない．そこで，デュタステリド内服中に生検をうけ前立腺癌と診断された日本人症例において，内服前後のPSA変化，病理学的特徴，癌の進展，予後について後ろ向きに検討した．前立腺癌の診断を受けた543名のうち12例がデュタステリド内服中であった．うち7例が高悪性度で，また4名は既に転移のある進行癌であった．PSA低下に関わらず発見された症例は7例で，うち5例は高悪性度であった．MRIに癌を疑わせる所見があり，画像診断の有用性が示唆された．本研究の倫理的配慮に問題はない．

本研究の優れた点は，PSAが下降する例でも高悪性度癌の存在が否定し難く，前立腺肥大症標準的治療に潜む癌診断遅延の危険性を示した点である．MRI検査が有用である可能性を示した点も含め，臨床における提言としての意義は大きい．

問題点としては，比較対象のない少数例の後ろ向き研究であることが挙げられる．しかしながら，今後の研究の礎として解明価値は大きく，デュタステリド内服下の前立腺癌スクリーニング法の開発や，癌進展メカニズムの検討などといった命題へと発展してゆくことが期待される．

平成29年1月18日に行われた学位論文審査会において，申請者は関連領域に関して十分な知識・経験を有していると判定された．

以上より，学位授与可と判定する．